

雲仙岳

概 況

火山活動に大きな変化は認められず、引き続き静かな状態が続きました。

噴煙活動の状況

噴煙は白色・ごく少量、噴煙高度の最高は 12 日の 80m(12 月 : 300m 以上)で、特に異常は認められませんでした(図 1、図 4)。

地震・微動活動の状況

A 型地震を 1 回(12 月 : 4 回)観測しました。震源は山体の地下約 2 km でした(図 2、図 5、図 6、図 7)。落石震動は 1 回(12 月 : 0 回)観測しました。B 型地震、火山性微動は観測していません。

地殻変動活動の状況

GPS による地殻変動観測では、雲仙岳測候所 - 田代原、雲仙岳測候所 - 垂木台地、田代原 - 垂木台地の各観測点間の基線長には火山活動に起因する変化はありません(図 8)。

平成新山東側山麓の噴気の状況

11 日に平成新山東側山麓の 2 地点から、白色の噴気が立ち上がっているのが確認されました。島原市と九州大学地震火山観測研究センターが 13 日と 17 日に実施した現地調査では、噴気地点は 2 地点(P 1 点、P 2 点)で噴気孔は P 1 点で 2 カ所、P 2 点で 5 ~ 6 カ所確認されました(図 9)。噴気は白色で、高さは約 5 m でした。噴気温度(地下約 2 m)は 33 ~ 52 でした。火山ガスは少量の二酸化炭素ガスが観測されました。

なお、同地点では平成 13 年 1 月 29 日に、噴気が上がるのが確認されています。

昭和 50 年 10 月 19 日には今回の噴気が確認された近くの、国有林板底(普賢岳と眉山の中間付近)で、火山ガスにより樹木等が約 30 本、枯死しているのが雲仙岳測候所の観測で確認されています(図 9)。

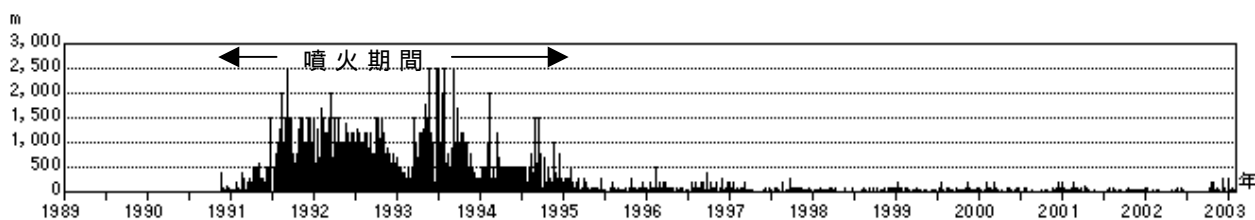


図1 日最高噴煙高度(1989年1月1日~2003年1月31日)

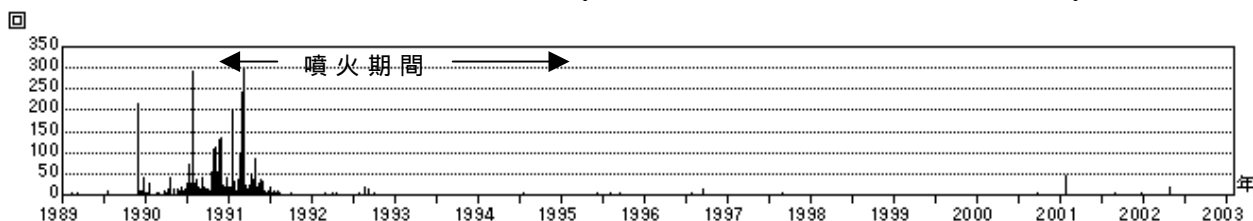


図2 A型地震日別回数(1989年1月1日~2003年1月31日)

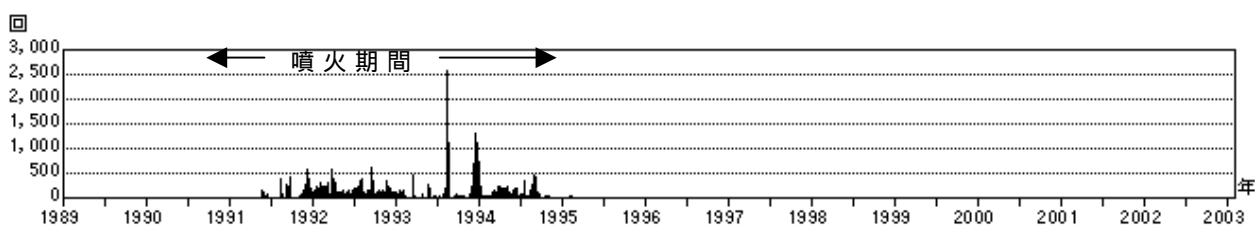


図3 B型地震日別回数(1989年1月1日~2003年1月31日)

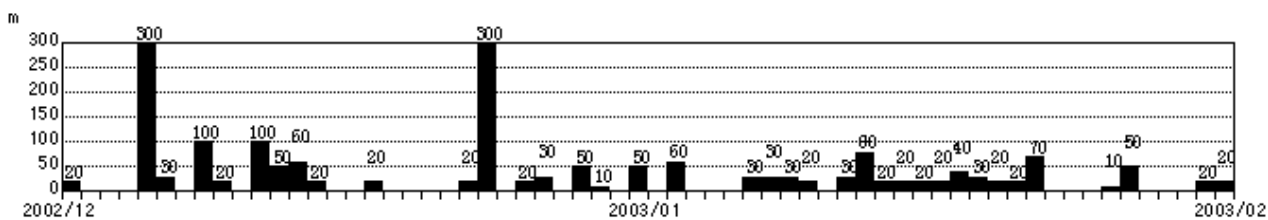


図4 日最高噴煙高度(2002年12月1日~2003年1月31日)

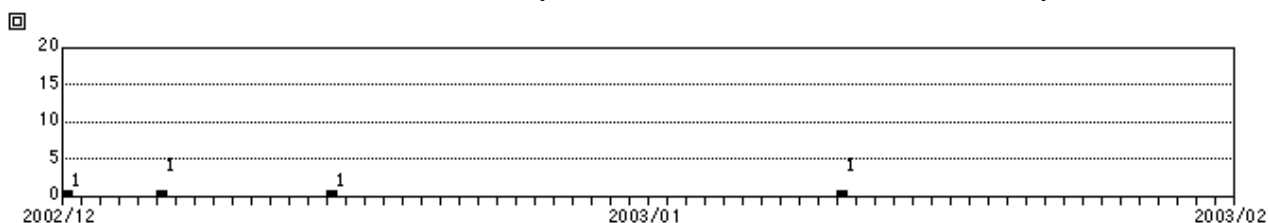


図5 A型地震日別回数(2002年12月1日~2003年1月31日)

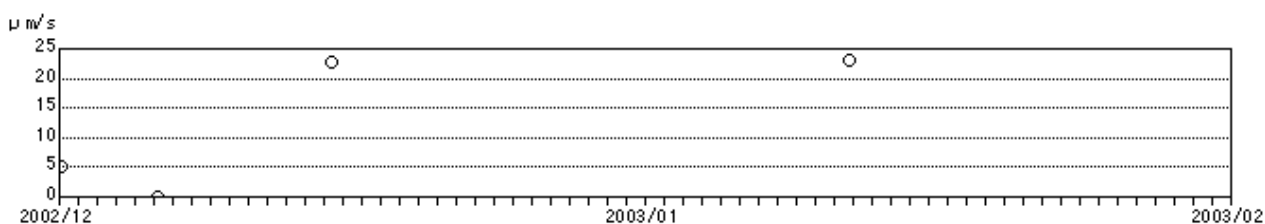


図6 A型地震の最大振幅(A点上下動)(2002年12月1日~2003年1月31日)

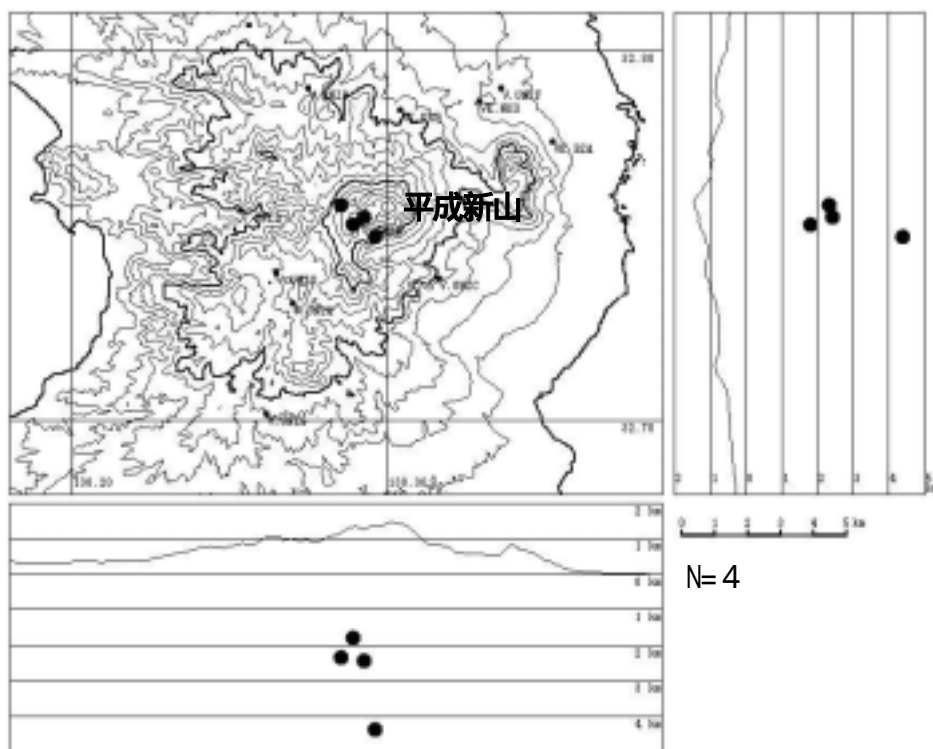


図7 震源分布図(2002年12月1日~2003年1月31日)

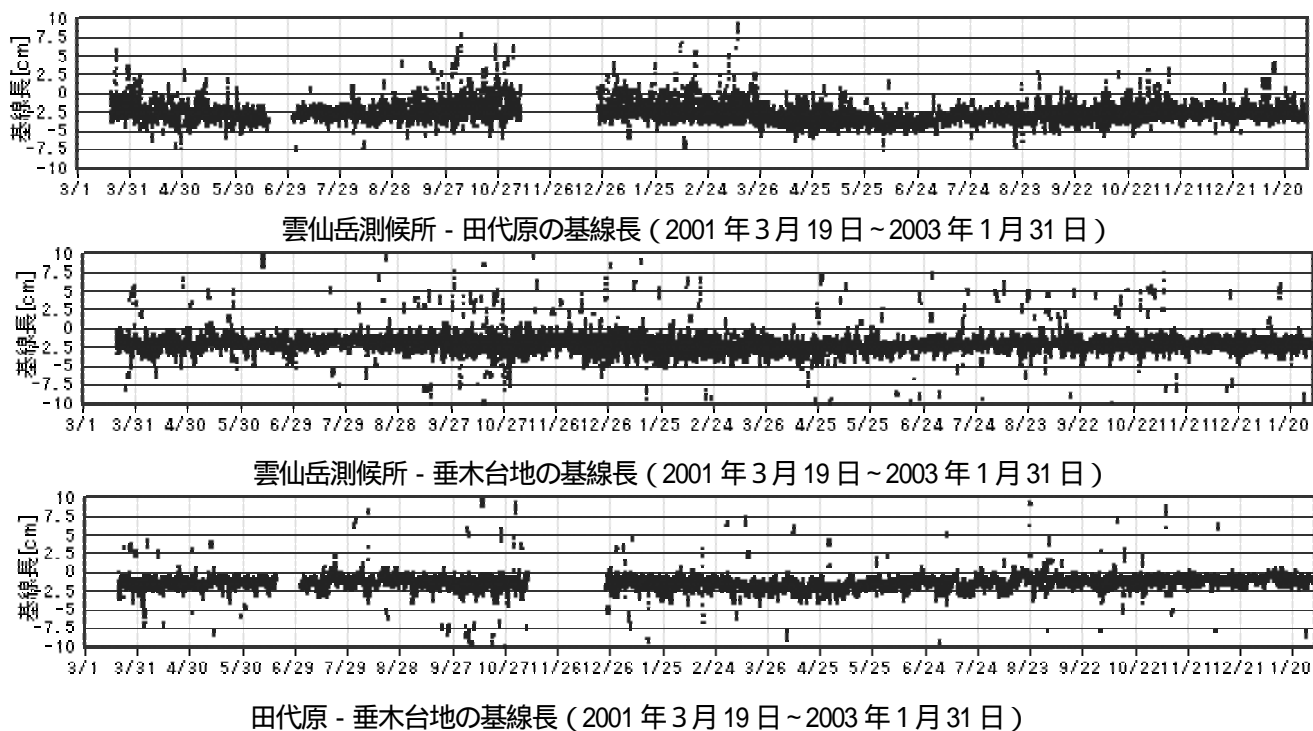


図8 GPSによる基線長

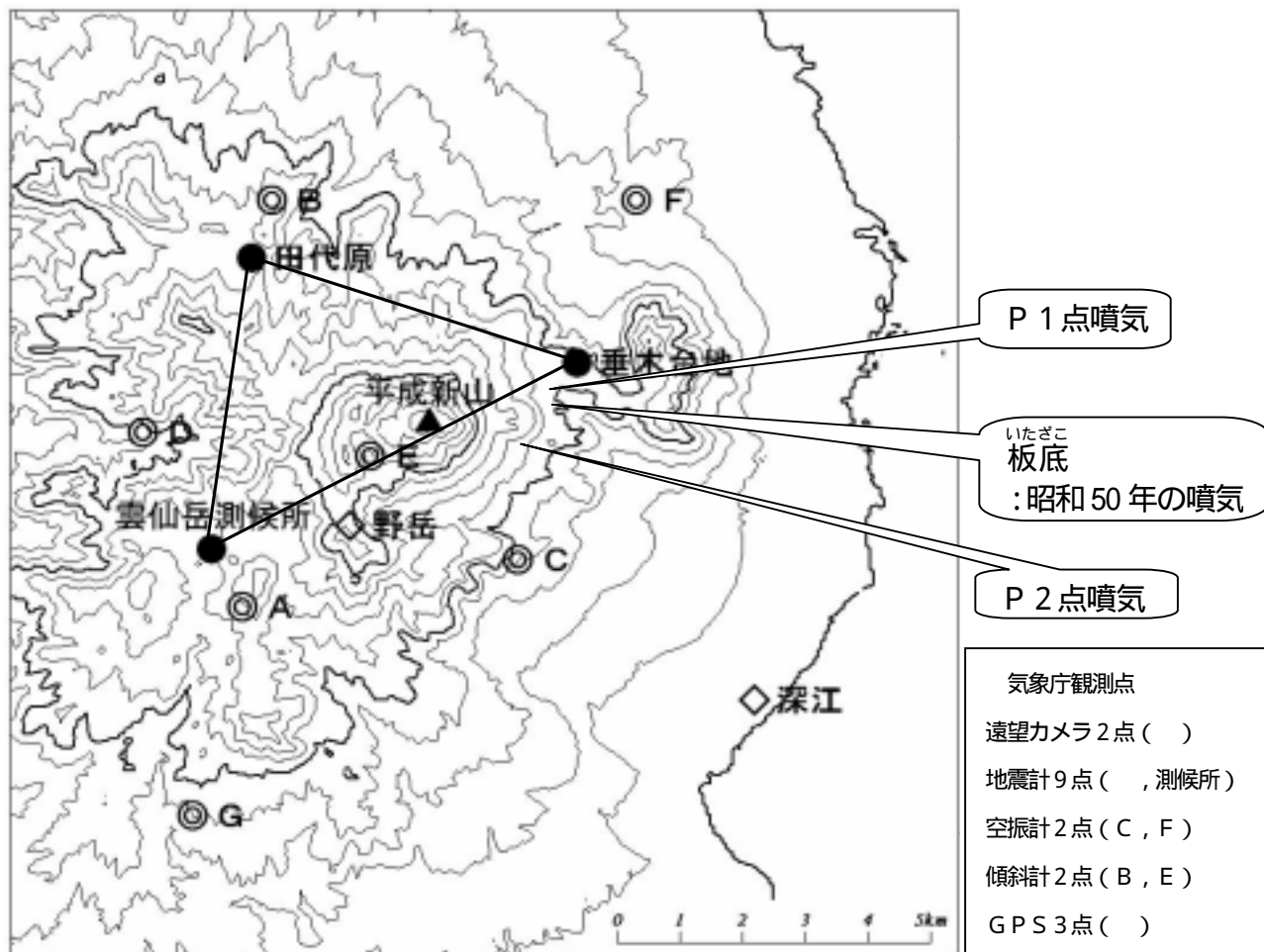


図9 観測点配位置図及び平成新山東側山麓の噴気地点